



令和 7 (2025) 年 10 月 1 日

校長だより Vol.8



『同じ星を見て歩いていきましょう!』⑥ ～青さんのことば～

必ず二日参りさせること

「一本のジュースやあめ玉一つだったとしても、次の朝、昨日は御馳走様でした。(ありがとうございました。)と言える生徒にしなきゃ。気がつく生徒を育てなければ勝てないだろ。それに、そういう奴(生徒)は何処行っても可愛がってもらえるだろ。」

自分が五感を磨け

「誰が職員室に入ってきたのかさえわからない鈍感な奴(先生)になるなよ。そんな奴に教わる生徒が、相手のどこにスキがあるかなんて見抜けるわけないだろ。目上にも同僚にも、目配り気配り出来ないような奴は使えない。生徒に挨拶や礼儀の基本を教えて気がつく人間に育てたいなら、自分がまず手を止めて、相手の方に向き直って、ちゃんと目を見て話を聴いてやれよ。」

初任の佐久間高校時代の話です。夕飯を食べるお店は限られていますので、必然的に、「あそこに行っているぞ。」でした。毎日色々なことを聴いてもらい、その何十倍も熱く語ってくれた、今も兄のように慕う先輩教諭からたくさんのことを学びました。

『同じ星を見て歩いていきましょう!』⑦ ～物事を成し遂げていくためには～

生徒会の生徒たちとのランチミーティングも 6 回目を数えました。先日の新旧会長を含めた男子生徒たちとの一場面です。「文化祭の準備はいつ頃から始めたの?」「だいたい一か月前からですね。」「そう、それで間に合った?」「まあ、そうです。」「こうしたランチミーティング以外に生徒会の話し合う機会はどのくらいある?」「……………」。「そうか、じゃあ月に 1～2 回(毎週だったら 4 回)定例で集まる曜日と時間を決めて、話すことが特になければすぐ解散でもいいから、ルーティンにしてみなよ。」「今から今年の改善点を検証すれば十分な準備が出来るし、新たに企画したいことが明確になるかもしれない。そういう時間はすごく大事でしょ。」「ああ…、そうですね。はい…。」

3 年生の生徒には、進路が順調に進んでいるか聞いたりしました。「俺、理論立てて物事を考えるのが好きです。だから、物理や数学が大好きです。将来は理工学部に進んで、開発や発明に繋がるようなことがしてみたいです。」目をキラキラ輝かせて自分の夢を語ってくれる生徒もいれば、まだはっきりとした方向性が持てず、なんとなく浮かない表情をした生徒もいました。

「夢や目標が明確に持てることって、すごくいいよね。自分がこうだと決めた道にまっしぐらに進んで、幅広く勉強して、たくさんの人を喜ばすことができる人になってくれよ。」「まだ、はっきりした方向性が出なくて苦しんでいる人は、今は苦しいだろうけど、真剣だからこそその苦しさだから、もう少ししがいて苦しんでみてほしい。逃げなければ、必ずいいことが待っているから…。」

20～30分程度ですが、こうやって昼御飯を一緒に食べながら生徒と話ができることが楽しくて仕方ありません。話は完結しないことの方が多いですが、「また、気軽に校長室に寄っておいで。廊下で見かけたら声を掛けてくれよ。」で終わります。

その日の放課後、『校長先生、生徒からの意見箱には、こんなにたくさんの意見がありました。たとえば、アイスの自販機を設置できますか…。』新会長と副会長が校長室に寄ってくれました。「OK!OK! すぐに行動に移すなんてすごい。嬉しいよ。」「でも、何のための生徒会なのかを考えてみるといいよ。」「こうした意見の中で実現可能なものがあるかどうかを揉むのが生徒会の役割だから、定例会を設定する意味があるんだよ。」「生徒会でも推進したい意見となれば、顧問の先生に相談して進めるといいよ。」「順序良く、説得力を持つ根拠を携えて、実現するために話を進めていくんだ。」「なるほど…、わかりました。」と、こんな感じでした。以前お話ししたとおり、生徒の自己肯定感や自己有用感を育成するためには、必要なやり取りでもあります。生徒が勇気を出してアイデアを提案しやすい環境を整え、一生懸命な失敗を見取り、成功する(成就するまで)プロセスに寄り添う。クラスや授業や部活動等の様々な場面での関りを通じて、最後まで成し遂げることが出来る人に育て(開発し)ていきましょう。

